第１号議案　平成 29 年度事業報告（平成 29．4．1～平成 30．3．31）

【自主事業】

１．家族の絆レストラン

■開催日及び参加人数
①8/20（日）10 組　39 名
②12/10（日）11 組　36 名
③2/25（日）12 組　40 名　　のべ：33 組　115 名参加

今年度は郵便局の年賀状寄付金をいただいて、計 3 回実施した。
アンケート結果は良好で、子どもが生まれてから初めて夫婦 2 人で食事を食べた、ミッションを経験して普段からもっと夫や子どもに「ありがとう」を伝えたい、など嬉しい言葉がたくさん並んだ。
今回 12 月に中京 TV の記者が参加したことから、2 月に TV 取材が実現し、一般の方へ広く周知することができた。
取材交渉をする中で、前回の反省を活かし、なるべく取材がイベント参加者に影響しないよう最大限の配慮をお願いしたが、記者が元参加者とあってスムーズに話がすすんだのが良かった。
その他助成金を使用してイメージ動画と企業への営業用パンフレットも作成した。
12 月末に今まで長年協力してくださっていたレストランが閉店、一時は今年度の開催も危ぶまれたが、イメージ動画、パンフレットを活用し、新しい協力先も確保できた。
来年度は企業協賛を得て 5 月に開催予定。
また、新たに別企業からもオファーがあり、毎回アンケートで提案されるパパ‘ｓクッキングの充実に応える新たな企画を現在検討中である。
その他企業協賛をきっかけに大学との連携を模索する動きもあり、来年度の展開が楽しみである。

２．出張親子ひろば「あおぞら広場」（全 3 会場 計 8 回　合計人数 251 人）

■開催日及び参加人数
【上飯田児童館共催】
・柳原公園 6/7 雨天中止、11/15　1 回　参加者合計 34 人　（子ども 19 人、大人 15 人）
・大杉公園 4/19、10/18　2 回　参加者合計 97 人　（子ども 54 人、大人 43 人）
・志賀公園 6/21 雨天中止、3/7　1 回　参加者合計 59 人　（子ども 29 人、大人 30 人）
【単独開催】
・柳原公園 10/4　1 回　参加者合計 18 人　（子ども 9 人、大人 9 人）
・大杉公園 5/31　1 回　参加者合計 43 人　（子ども 23 人、大人 20 人）

■活動報告
あおぞら広場は、「気軽に参加できる交流の広場づくり」をテーマに、地域の見守りの輪を広げることを目的にしている。上飯田児童館、民生子ども課の保育案内人、土木事務所、学区民生委員、児童委員の方たちと協働して事業を行った。これにより、地域のママたちにとっては、その地域に根ざした専門機関がある、という安心につながるのではないかと感じている。また、あおぞら広場

が、地域の子育て情報発信の場となり、子育て相談の場となるようにした。年度末には、あおぞら広場の関係機関が集まり、あおぞら広場振り返りの会を実施。次年度へ向けての改善点などを話しあった。

今年度も、まめっこ単独での開催を実施。民生委員や児童委員の方たちの協力もあり、無事開催する事ができた。

屋外の実施という事で、日によって陽射しが暑かったり風が冷たく肌寒かったりした。雨天中止になる事もあった。それでも、「今日は、あおぞら広場やりますか？」と言って、あおぞら広場を楽しみに来てくれる親子の姿があった。事業を継続する事によって周知されてきたと感じる。

同じくらいの月齢の母が声を掛け合い、情報共有する姿もよくみられた。7ヶ月の子を連れた母親は、「子どもを連れて初めて公園に来ました」と言っていた。2歳の子を連れた母親は、「今日は砂場で汚れてもみんながいると気にならない」と言っていた。公園でやることで、気軽に参加でき、一人でする子育てから解放される。

■平成30年度の実施計画

次年度は、全3会場　計8回を計画している。内、2回まめっこ単独開催。

３．まめっこボランティア

子育て中の保護者や学生など広い範囲でボランティアを募集。現在の登録者数は11名。
活動内容は、遊モア広場での親子への関わりやスタッフのお手伝い、あおぞら広場で公園に来た親子への声掛けや絵本の読み聞かせなど。

まめっこボランティアのメーリングリストを作成しており、毎月まめっこから、遊モア柳原と遊モア上飯田のお知らせ・あおぞら広場の日程・わかば子育て支援ルームの案内・まめっこの関わるイベントの案内などをメールして、ボランティア活動を促している。

10月に遊モア上飯田がオープンした時は、オープニングイベントへの参加やスタッフと共に利用者へ年間登録用紙を配るなどした。3月に開催されたユースクエア主催の『平成29年度ユースクエアまるごとフェスティバル』では、まめっことしてスタッフと共に出展し、地域に出向いた。

今後、利用者が増えるイベント時のサポートとしてボランティアが必要となってくる。また、あおぞら広場のまめっこ単独開催実施を増やすためにも、まめっこボランティアへの呼びかけを続けていく。

４．親と子の教室　モアファミ

■開催日及び参加人数

①7月9日（日）参加者：6組13名（母と子4組、父と子1組、ファミリー1組）
②9月18日（祝月）：台風の為中止
③3月18日（日）参加者：5組14名(母と子2組、父と子1組、ファミリー2組)

まめっこ親と子の教室「モアファミ」は、親にとっても子にとっても“ほっ”とできる場になること、そして、親も子も主人公として過ごせることを重視し開催。
開催内容の柱は、“あそび”と“ディスカッション”である。

この事業は理事が関わり、学生ボランティアも研修・補助として2名ほど関わっている。

29 年度は、7 月 9 日（日）・9 月 18 日（祝月）・3 月 18 日（日）の計 3 回を計画。

1 回目のディスカッションテーマは、「私と子育て」。親子遊びのテーマは、「ドキドキ体験遊び新聞ビリビリ 2017」。

参加者の中には、初めて父と子だけで時間を過ごすという方もいた。子は泣く事が多かったが、父としては過ごせたという事が子育てへの自信につながったようだった。この親子は 3 回目も 2 人で参加、子は泣く事なくよく動き回り遊んでいた。父は、ディスカッションの中で「自分の子どもの時は、父親と関わる事が少なかった。自分は、子どもの記憶に残るように関わっていきたい」と話していた。親子遊びでは、身近な新聞を使って、参加者親子みんなで新聞をビリビリしたり掛け合ったりして楽しんだ。

3 回目のディスカッションテーマは、「家族って何・・・？」。親子遊びのテーマは、「クッキングであそぶ」。

1 回目開催から約半年後の開催で、ハイハイしていた子が歩いていたり、母にくっついていた子がスタッフや学生といろいろな会話をしたりと子の成長も感じられた。
ディスカッションでは、子どもの頃にも振り返ったことによって、参加者の中には「子どもの頃は母と父の考え方が違って戸惑う事が多かった。自分は、親同士で話し合う時間を作って、子どもと接していきたい」と話す方もいた。クッキングは、白玉だんご作った。親子で粉を捏ねたり丸めたりして楽しんだ。

５．支援るーむわかば

H29 年度に引き続き、スタッフの確保に苦労することもあったがおおむね月に 1 度の参加を実施した。わかばでは遊モアの紹介やイベントの案内のほか、親子に寄り添い親同士や外部へつなげるサポートをしている。まめっこスタッフが参加することで、「遊モアは知っているが、行ったことがない」という母たちに直接会うことで遊モアに対しての安心に繋がっている。

また、継続して参加していることで地域の保育園・学区の主任児童員の方との関係もよくなっているように感じる。

６．くれよん

ひとり親家族の集まりとして、原則第二日曜日の午前、遊モアに集まって開催した。内容は、講師（ほとんどはひとり親の当事者）を招いての音楽遊び、いのちのお話(助産師)、ファイナンシャルプランなどの講座的なもの、みんなで一緒に楽しむ企画として流しそうめん、クリスマス会、外出として 5 月に名城公園、10 月に名古屋市科学館で楽しんだ。特に企画を設けず自由に交流する日もあった。秋の外出のみ、参加者が 1 組(門間除く)と少なかったが、他は 4～7 組程度の参加者が多かった。名古屋市立大学看護学部の学生が託児として参加した。おてらおやつクラブのおやつも定期的に届いている。

大々的な宣伝はしていないが、遊モア（上飯田含む）利用者やキッズステーションからの紹介などで、少しずつ新規参加者もある。新規参加者は緊張しながら来ることが多いが、みんなの雰囲気で安心したという声をよく聞く。758 キッズステーションの講座「つながる！ひろがる！シングル親子の会」の講師(コーディネーター)も、くれよんのメンバーが務めている

【名古屋市受託事業】

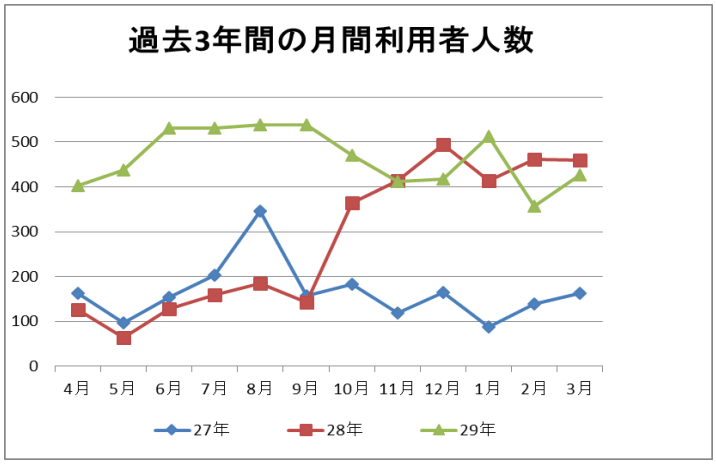
１．遊モア柳原

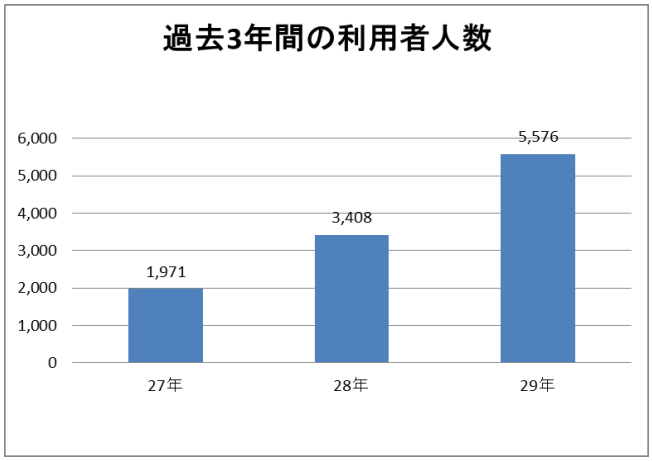
■　月間利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
27 年	163	96	153	203	346	157	183	118	164	87	138	163	1,971
28 年	126	63	127	158	184	143	364	413	495	414	462	459	3,408
29 年	402	438	532	531	539	539	470	412	418	512	357	426	5,576

※平成 28 年 10 月からは拠点化に伴い利用料無料

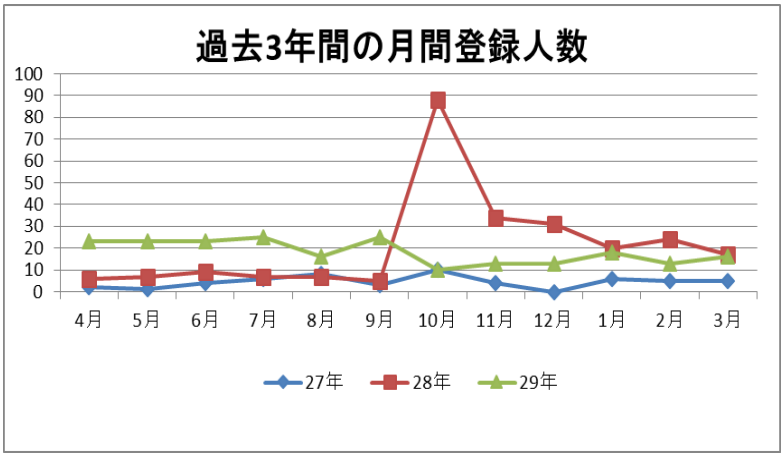
※26 年 8 月は柳原商店街休憩所利用者数を含まない





■月間登録者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
24 年	7	5	8	8	8	4	7	3	4	5	4	7	70
27 年	2	1	4	6	8	3	10	4	0	6	5	5	54
28 年	6	7	9	7	7	5	88	34	31	20	24	17	255
29 年	23	23	23	25	16	25	10	13	13	18	13	16	218



■ 総評

遊モア柳原は 1 日平均 10 組、20 人の親子が利用している。親子で過ごすには丁度よい人数であり、母たちもお互いに顔見知りになりやすく、会話が弾むことも少なくない。今年１月に市が実施した拠点利用者アンケートの結果でも親同士の知り合いができた、交流ができたという声が約６割あった。

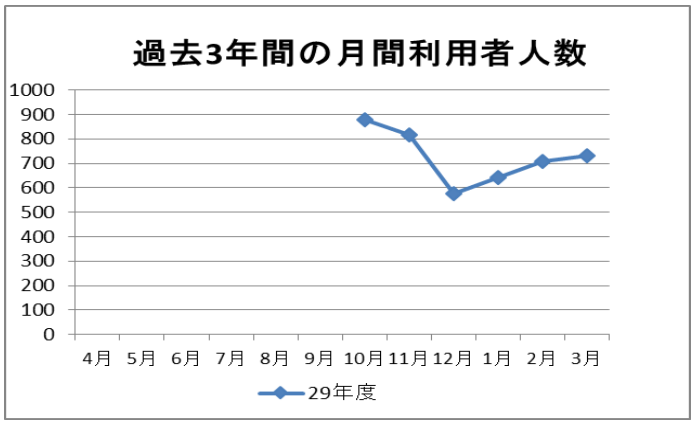
また、遊モア柳原の満足度は満足が 90%を超え、不満の意見は 0%であった。改善し欲しいという意見では駐車場がもっとほしい・一時保育してほしいが多く、この点は、まめっこだけでは改善が難しい。しかし、中には地域の団体と連携した伝統文化や行事に実施という意見もあった。今後は普段の遊モアの中にも少しずつこういったイベントを入れ、より地域に溶け込むことも大切と感じた。また、地域に溶け込むことは拠点としての遊モアの活性化にもつながると思われる。

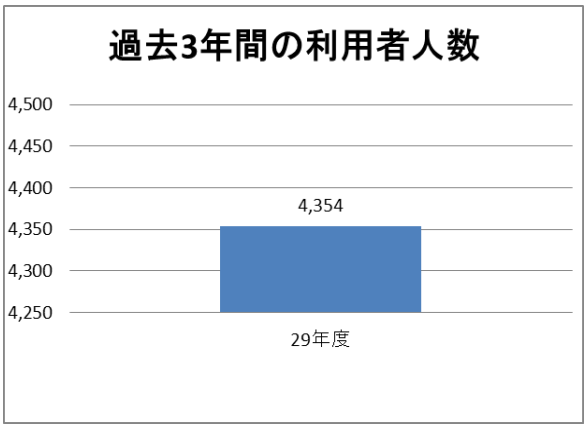
２．遊モア上飯田

■ 月間利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
29 年							878	815	577	644	708	732	4,354

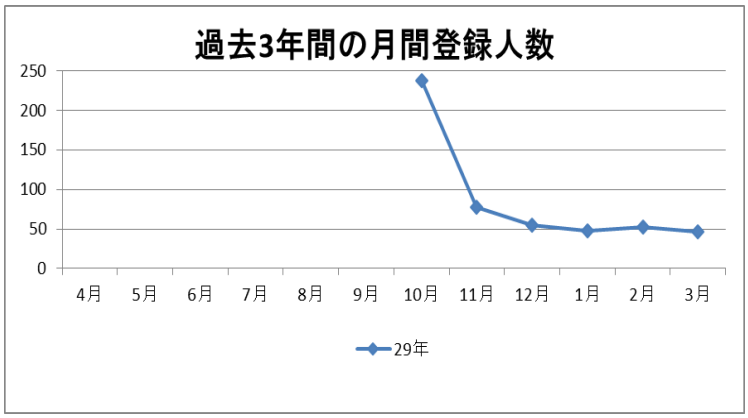
※平成 29 年 10 月イオン上飯田に新規オープン





■ 月間登録者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
29 年							237	77	55	48	52	47	516



■ 総評

新規登録数は１ヶ月平均 50 組で昨年 10 月のオープンから 500 組を超えた。

4 月から新入園の子どもも多く、「遊モアは土曜日も開設していますよ」と声をかけた。慣らし保育の期間は午後の利用で子どもの様子を話して下さる方もいた。

イオンの中にあり、買い物ついでに気軽に立ち寄れる場所という立地にあって、遊モア上飯田は国籍や生活環境等、多様性の高い親子が集う。「無料」の遊び場所として遊モアに来られた利用者が、スタッフと話し、周囲の親子と接する中で、劇的に変化する事例もある。例えば、子どもを叩いてばかりいた母が叩かずに子どもに語り掛けることができるようになった事例。「子どものことわからないから家にいるとイライラしてすぐ叩いてしまうが、ここにくると勉強になる。スタッフさんが話を聞いてくれるから、あしたも来ます。」と毎日のように通ってくれるようになった。

遊モア上飯田は短時間利用が多く、交流を持ちたいというよりも子どもと安心して過ごせる場所として来られる親子が多い。しかし個々に抱えるちょっとした悩みや育児の楽しみをみんなで共有できるような雰囲気作りによって、上記のような事例をより一層増やしていけると良いと思う。

今後はイベントを増やしてほしいという利用者の声やニーズを汲み取り、イオンや地域を巻き込んで企画を立てていきたい。

３．名古屋市子ども・子育て支援センター（758 キッズステーション）

■全体について。

・10 周年記念イベントを開催。3/16・17・18 矢場公園にて。講座「そとであそぼう」をベースに実施。初日は雨天であったが参加者は 3 日間合計で延べ約 1521 人。

後援：栄学区連絡協議会、運営協力：学校法人慈慶コミュニケーションアート、名古屋医健スポーツ専門学校、名古屋スクールオブミュージック＆ダンス専門学校、参加・出展協力：小幡緑地冒険遊び場の会、てんぱくプレーパークの会、なごや防災ボランティアネットワークなか、矢場公園愛護会、べんがら泥染め：えまほあも、こどもＮＰＯ，名古屋市上下水道局。

・名古屋市認定「名古屋市子育て支援企業」へ仕事と子育ての両立支援の取り組みを取材。キッズステーション HP へ掲載した。

■講座について。

・全講座希望者前年比 1.08。

・まめっこスタッフ講師担当：単発講座「二人目育児を楽しもう」、連続講座「赤ちゃんタイム」

キッズパーク（コンシェルジュ）として、次のことを実施した。

・助産師相談（月 1 回）。⇒愛知県助産師会の協力を得て、コンシェルジュのスーパーバイズを兼ねる。

・発達相談（月 1 回）⇒個別に相談したい親を対象にキッズスタッフが別途時間を設け対応。

・ミニイベント：保育士・保健師による保育園生活に関するお話会。母の交流を目的とした名札の会（母に題目の書かれた名札をつけてもらい話題提供）。

・キッズパーク利用人数：前年度比 0.94。⇒利用人数のみを見ると前年より減少しているが、コンシェルジュの感覚として滞在時間の延長を感じている。

・個別相談　前年度比 1.48。電話相談　前年度比 1.12

地域子育て支援拠点研究会として、次のことを実施した。

・拠点メーリングリストの運営：33 拠点中 29 拠点が参加。
・各拠点への見学会：33 拠点中 12 拠点を見学。
　⇒目的はキッズパークの利用者を地域の拠点につなげていくための生の情報を得ることにある。実際に見学できたことで一層利用者に合った利用を促すことができた。
・勉強会・交流会の実施：9/29「うちの拠点の“強み”を知ろう！！届けられる支援を届けたい人に！！」講師：柴田朋子氏。参加者 20 人（13 拠点）拠点メーリングリスト未参加団体からも参加者があった。
　・H30/6/30「気になる親子への対応」講師：河野弓子氏。実施予定。

　今年度はコンソーシアムによる契約最終年度であり、次年度以降の同コンソーシアムによる再契約へ向けて準備を開始している。

４．上飯田児童館「わくわく遊び隊」

定員 15 組、年 18 回実施。1 組 1000 円で、半期毎（前期 9 回、後期 9 回）の事前申込み制。
全水曜日の午前中に、スタッフの計画したスケジュールに沿って親子で遊ぶ。
1 才～2 才半までの子どもを対象に、子どもは遊びの中で人と関わることを経験し、大人は子どもと向き合いながら、親同士の交流につながるような場を提供している。
今年度のわくわく遊び隊は、以下の目的を持って計画し実施した。
・親同士が仲間意識を持ち講座後も関係を持てるようにする
・子どもの成長に欠かせない体を使っての体幹バランスや手先を使う遊びをする
・集団ならではの遊びをして、集団での楽しさを実感できるようにする
・季節の遊びをすることで、季節感を味わう
・親子で触れ合う大切さを実感できるようにする
その結果
・親同士が顔を合わせると誰とでも会話をする姿が多くみられ、終了後も 2・3 組で一緒にお昼を食べて帰る姿がみられた。
・参加者の声として「初めて平均台を歩いて、1 回できると何回も繰り返しやっています」や「シール貼りが得意みたいです」といった声が聞けて、子の成長に気付いたり改めて感じたりしたようだった。
・7 月にスイカ割りを行った時は、子どもはスイカの感触やスイカの重さを実感した。親は目隠しをして、他の親の声でスイカまでたどりつきスイカを割った。参加者が一体になって楽しめた。
・親子でする『おかあさんのおひざ』などの手遊びでは、親にギュッとされて子どもの嬉しそうな顔がみられた。
・終了時には「毎回違う親同士でテーマに沿った話をした事が、他そういう機会がないので、それがよかった」や「子どもの成長がみられてうれしい」、「また参加したい」との声があった。
次年度も、前期と後期の 9 回に分けて、全 18 回の実施を予定している。

５．イライラしない子育て

■実施日時：H30 年 2 月 22 日（木）10：00～12：00
■参加人数：10 名

名古屋市子ども青少年局子ども福祉課からの依頼を受けて実施した。
依頼から実施期間までが短かったが、託児付、無料とあって、母たちの関心は高く、あっという間に満席となった。
講師は青少年養育支援センター陽氣会、CPA「イライラしない子育て法」トレーナー、元名古屋市保育園長の後藤加代子氏。
現在、親の 70%が身近に子育て環境に接しないまま子育てを開始しており、子育てを学ぶ時代となっている。子育てには愛情・熱意・忍耐が必須であるが、＋α（技術、コツ）があると更に良いこと、しつけとは「コミュニケーションによるホームトレーニング」であるなど、子育てへの意識が変わるような視点や、子どもの発達に合わせた具体的な声のかけ方等を母たちが学ぶ機会となった。
こうした子育てについて別室託児付で学べる機会は少ないので、とてもよい機会になった。もっと地域でこうした学習会ができるよう継続して市へ要望していきたい。

【厚生労働省委託事業】

地域の人材による子育て支援活動強化研修事業

１．地域子育て支援拠点研修事業〈愛知開催〉

■開催日：平成29年11月3日（金・祝）10:00～16:00
■会場：ウィルあいち３階大会議室
■主催：NPO法人子育てひろば全国連絡協議会
■後援：（社福）全国社会福祉協議会・愛知県・名古屋市
■参加人数：182名

２年振りの愛知開催、まめっこは現地事務局として協力した。当初の定員 100 名を大幅に超えて全国から沢山の参加があった。
参加者は子ども・子育て支援新制度がスタートして２年、手探りながらもそれぞれが実践を重ね、再度自分たちの方向性を確かめたくて参加した、と言う方が多かった。アンケート結果を振り返ってみても、研修への満足度は高く、継続的な研修を望む声は多い。特に実践例を多く聞くことができたプログラム 4 への関心は非常に高く、参加者同士の交流タイムに参加者同士熱心に話し合う姿が見られた。
この 3 年間で大幅に増えた名古屋市内の地域子育て支援拠点。新しく拠点を開設した他法人の仲間や、担当の行政職員と共に、これからの方向性を確認ができたことも大きな一歩となった。

【その他の助成事業】

１．地域子育て支援拠点で働きたい人のための学習会

■実施日・内容・講師
①H29 年 5 月 11 日（木）「支援者としての心構え」　競　朗子氏
②H29 年 6 月 8 日（木）「傾聴トレーニング」　高橋　弘恵氏
③H29 年 7 月 6 日（木）「発達に不安のある子どもとその親への対応」　河野　弓子氏

④H29 年 8 月 3 日（木）「地域子育て支援拠点に求められている役割」　安田　典子氏

■参加人数：①20 人　②22 人　③20 人　④17 人　のべ 79 人

名古屋市社会福祉協議会の地域の子ども応援事業の補助金をいただいて全 4 回の学習会を実施した。名古屋市を中心として近隣の市町から今後支援者として働きたい人、すでに現場で働いている 3 年未満の人を対象に、地域子育て支援拠点で働くために必要な知識やすぐに現場で使えるテクニックなどを身につけてもらえるよう講師を選定した。

この学習会を受講後 4 名がまめっこスタッフとして更に研修を重ね、10 月よりスタッフとして勤務している。

まめっこのスタッフになりたい人だけでなく、広く名古屋市全体の支援者の質の向上に役立てるよう、同じく拠点を運営している他団体にも広く広報した結果、他団体からも多く参加があり、拠点同士の交流の機会にもなった。来年度も引き続き開催する予定である。

【大学での講義】

１．金城学院大学「家族支援論」

■4 月 11 日から 8 月 1 日　計 16 回

・全 16 回の前半は講義を中心に進め、中盤に赤ちゃんとママに講師をしていただき、学生たちとの学習交流を行った。初めて赤ちゃんに触れあう学生たちは「かわいいけど、どうして抱いたらいいのか怖い」「泣いたらどうしょう！」「どうやって遊んでいいかわからない」などの感想が多く聞かれた。後半は助産師・保育士・NPO 団体の代表者・子育てをしているパパなどゲスト講師を招いて専門的な知識や体験談を講義していただく。後半に赤ちゃんとママと学習交流をした時には２回目とあって学生たちは少し慣れて、抱っこしたり、遊んだりして、赤ちゃんの成長に驚いていた。学生たちは子育て中のママから家族や仕事、生き方などを学ぶことができて好評のうちに終わることができた。学生たちのアンケートでは赤ちゃんがかわいかった。私達の質問に答えてくれるママたちに感動した。という声もあった。子育ての楽しさや大変さを伝える授業や女性の生き方を考えるきっかけとなる授業ができた。

２．愛知淑徳大学　「違いを生きる・ライフデザイン」

■5 月～6 月　12 講座

・1 講座で 200 人前後の学生たちに現状の子育て支援の成果と課題を伝える。情報社会でありながら、子育てについては今まだ根強い固定観念に縛られているところがある。多様な働き方や家族が見られる現代社会において、多様な子育ても実現するべきだ。そこで「まめっこ」が取り組んできた、地域での子育て支援、父親を巻き込んだ子育て支援を紹介し楽しい子育てをすることは人とのつながりができて街づくりとなる取り組みを報告した。